

平成27年度 第2回東広島市総合教育会議 議事録

1 日 時 平成27年9月17日(木)
開会15時00分 閉会16時20分

2 会 場 東広島市役所北館2階201会議室

3 出席者 (構成員)

東広島市長 藏田 義雄

東広島市教育委員会

教育長 下川 聖二

委 員 渡部 和彦 (教育長職務代理者)

委 員 坂越 正樹

委 員 織田 壽子

委 員 長嶋 香穂里

(説明のために出席した者)

副市長 榎原 晃二

福祉部長 和田 幸三

学校教育部長 増田 泰二

生涯学習部長 大河 淳

理事 信井 充壯

(事務局関係)

総務部長 松尾 祐介

総務部次長兼総務課長 大垣 勇人

総務課 課長補佐兼行政経営係長 大石 美廣

行政経営係 主任 長尾 竜次

4 議 事 (1) 東広島市教育大綱案について
(2) その他

5 内 容

○開 会

○藏田市長あいさつ

○議 事

(1) 東広島市教育大綱案について（事務局説明【資料1】）

<藏田市長>

大綱案について、意見があればお願いします。

<坂越委員>

副題が「未来をつくる人づくりのまち」と「つくる」「つくる」と言葉を重ねている。普通は避けるところを、人をつくる、未来をつくと重ねて敢えて強調の意味を持たせたのでしょうか。

<事務局>

「未来をつくる」ということと「それをつくる人をつくる」ということを念頭に、本理念を定める上で、未来づくりとひとづくりを強調していきたいという思いで整理しました。

<坂越委員>

未来をつくるためには人づくりが一番大事だという理念はその通りだと思うのですが、そういう説明があればよろしいかと思います。

<藏田市長>

その辺りをわかりやすく。少し解説を入れたりすればよい。

<坂越委員>

基本理念のページに説明が1行でもあればわかりやすい。

<事務局>

一文加えさせていただきます。

<藏田市長>

大綱案を見ていただき色々なことを感じられていると思いますが、教育長何かあればお願いします。

<下川教育長>

基本方針の中に、「東広島市総合計画」の「未来にはばたく国際学術研究都市」も入っているし、教育委員会が策定した「東広島市教育振興基本計画」の学校教育と生涯学習も基本方針2と4に入っている。0歳からのスタートという福祉の面も入っており、バランスよく配置されていると思う。

1ページの大綱の位置付けのところに「教育振興基本計画」と連動してということがありますが、「つながる つなげる 育ちあいのまち」は「東広島市子ども・子育て支援事業計画」を受けていると思いますので、それを入れた方が教育委員会だけではなく福祉の子

育ても一緒だということが、ここの位置付けの中で分かって良いかと思います。

<和田福祉部長>

「つながる つなげる 育ちあいのまちづくり」は「子ども・子育て支援事業計画」の基本理念の言葉です。

こちらは、子ども子育て支援法を受けて、平成27年の4月から平成32年の5か年の市町村の計画として策定したもので、子育てが主になります。この計画の中にも教育の部分を若干入っていますが、0歳からの子育て支援や家庭の教育など、本市も今、パパママ学級や産前産後のヘルパーなど、色々な本市のオリジナリティーを生かしたサービスをしており、そうしたものをさらに充実させていくように考えています。

今日の大綱の関係で言いますと、幼稚園、保育所、それから小学校の連携ということもこの計画の中に盛り込んでおります。小学校の方へ幼稚園児、保育園児が出かけて行って交流をしたり、あるいは、様々なイベントに参加させていただいたり、小学校、幼稚園、保育園の教諭、保育士の交流に取り組んでいるところです。

子ども子育て支援法の法律を受けての計画でございますので、その辺も検討していただければ。以上です。

<下川教育長>

振興基本計画の所にあわせて入れたら良いのではと思いますが、どうでしょうか。

<事務局>

子ども子育ての計画だけでなく他の計画も絡む計画がありますが、主には子ども子育てが中心になっているというところもあります。今の図の教育振興基本計画の下側に入れるという考え方もございますので、そこは皆様でご議論いただければと思います。

<和田福祉部長>

ちなみに、子ども子育て支援事業計画の基本理念の「つながる つなげる」、これも言葉遊びで重複しておりますけれども、最初の「つながる」は、いわゆる、ネットワークの「つながる」それを、未来へ「つなげる」という意味で「つながる つなげる」としております。

<藏田市長>

教育振興基本計画のように図に位置づけ、分かりやすくするのも一つの案だと思います。渡部委員はいかがでしょう。

<渡部委員>

全体的に本市の特徴がよく生かされていると思います。とりわけ、大学との交流、知的財産の活用、それから0歳から生涯にわたる能力開発、高齢者まで網羅されているので非

常に良いと思います。

特に本市の教育の中心として据えております、和文化教育ということも強調されており、全体を網羅しているという気がします。

大綱ですからこういうものかと思うのですが、とりわけこれからの時代、基本方針の3の国際交流が大事になってくるのではないかと思います。

そういう中で、留学生を派遣するとありますが、大学とどのように連携して、こちらから外国に派遣するというのも重要ですが、現にたくさんの留学生が来ておりますので、その人材をいかに本市として将来にわたって、ある意味育てて、市としての活力に、力になってもらうという、そういうところがあればと思いました。基本的には良くできていると思います。

<藏田市長>

1 ページ目の教育振興基本計画の中に、基本方針1の「つなげる つながる 育ちあいのまち」を教育長が言われたように、盛り込ませていただくというのも0からのスタートという意味でも良いのではないかなと。

<下川教育長>

学校教育、生涯学習だけではないと。子育て、保育、幼稚園を含めて教育大綱の中にうたっているというのが大きな特色だと思います。

<長嶋委員>

私も見える形であった方が良くと思います。

<織田委員>

子育てということでは学校教育だけでなく、福祉関係での取組みがかなり大事だと思います。そこが本市の強調されているところであれば、福祉の計画名があると東広島市の教育大綱は幅広い視野で考えているというのが明確になると思います。

<藏田市長>

先程、福祉部長が申し上げましたが、子ども子育ての基本理念がここになるということで、入れさせていただければと思います。

<事務局>

正式名称で「東広島市子ども・子育て支援事業計画」と教育振興基本計画の下側へ入れさせていただくようになるかと思います。

<藏田市長>

そのようにお願いします。

次に4ページの基本方針3の大学との連携ということで、大学との連携の仕方、もっと活力のある使い方を、あるいは表現の仕方ということで渡部委員からご意見をいただきました。その辺りで何かありましたらお願いします。

<事務局>

本市では、東広島市国際化推進協議会を組織いたしまして、多文化共生ということを推進しております。

特にご指摘のありました、留学生の方、本市では住民登録のある外国人の方が今年度当初4,725名いらっしゃいます。住民の中でも大きな割合を占めており、生活が孤立しないため支援を行っていくというところで取り組んでいるところです。

もう一点は、生活の支援と共に、せっかく外国の方がいらっしゃるのですから、従来からの市民に対しての国際感覚を養うということも必要であろうということで、地域全体への波及効果を及ぼすような事業の展開というところを大きな課題ととらえておりますので、今後、そうした課題を踏まえながら、一層の多文化共生のまちづくりを推進するというところで進めているところでございます。この教育大綱の中でも含めていきたいと考えたところでございます。

<藏田市長>

渡部先生が言われたのは、国際交流と同時に現場の大学とのあり方の連携をもっとという意味を言っていたのかと思いますが。

<渡部委員>

そうですね。今、留学生が広島大学だけでなく、近畿大学、広島国際大学にもいらっしゃいますが、そうした方々は国へ帰るということ前提として考えていますので、優秀な人材をいかに東広島市内、広島県内に、将来活躍してもらえよう、そういう発想も大事ではないかと思っています。

人口減少という中で、本市は全体的に人口があまり減っていないというのが特徴ですが、優秀な人材を確保するという考え方も大事ではないかと思っております。そういうことから考えると、交流というのは、こちらで勉強してもらって「さようなら」というのではなく、踏み込んだ考え方を出したらどうかと思います。

<藏田市長>

形式だけでなく、個人的にも色々な付き合いをしていただいたりとか、同年代で仲良くなっていたりとか、もっと溶け込める方法もあるのではないかと思います。

どちらにしても東広島市に来られるというのは随分興味をもって来られるわけですから。

<渡部委員>

優秀な方が来ているので、国に帰られても非常に重要なポジションで活躍されている方が

多い。そういう方と将来的に交流し、つながりを大事にするということが必要だと思います。

<藏田市長>

国と国との話ができる人がいるのはすごいですね。

<渡部委員>

マレーシアや東南アジアから招いた方が総理大臣になったり、閣僚になったり活躍されている方もいらっしゃいます。

広島大学を卒業した学生が学長として活躍されたり、企業の社長として頑張ったりという優秀な人材がいるので、もう少し留学生を見る目を変えたらどうかなと思います。

<藏田市長>

その辺りも含めて市民、地域と学生との交流を考えていかなければと思います。

<渡部委員>

基本方針4にある「市民一人1学習、1スポーツ、1ボランティア」ということは大変良いことで、市民がそうしたスローガンを見ながら、自分はボランティアを一つやってみようとか、スポーツをやってみようとか、そのような気持ちになると大変良いことだと思います。

その中で、学びたいと思うものを学ぶことができるという、これは非常に良いことですが、逆に学んでほしいということもあります。

一つの例としては、高齢者をいかに介護していくのかということ。役所の方としてはサービスできないというくらいにそうした方が増えてきている。そうすると、市民の中で、そういうボランティアなりで高齢者を支えるということも大事だと思います。

その中で、専門的なことを勉強してほしいという場の提供。

ここにある大学に専門的な知識を持っている方もいらっしゃるのですが、色々勉強したいという中でも、高度なレベルの高いところを勉強していただいて、地域社会に貢献していただけるようなそういう意味での文言が少し入れば。

高度な専門的なというところが本市の大学、研究機関があるというメリットではないかと思っています。

いわゆるカルチャーセンターで色々な教養を身に付けるということも非常に大事なことで、広島大学などでも色々やっていますが、例えば、夜間の授業へ行けば、国がしたためているところまでいかないにしても、本市が一つのカリキュラムを組んで、そこをクリアすれば、本市としてそういう活動、ボランティアとして認めるという、そういう能力を身に付けていただくというのも大事なことではないかと思っています。

<藏田市長>

ここで学んだ後の社会貢献の事をおっしゃっていると思いますので、そういったことが大いに発揮できる環境づくりというものを、学びのキャンパスの中でやるという方向性をつく

っていただければということだと思えます。入れさせていただきます。

<坂越委員>

大学との連携もグローバル化国際のことも入れていただいております、大変ありがたいと思えます。

基本方針2で表現が少し気になる所があります。「知・徳・体」で一番目が「かしこく」で「知」かなと思えますが、文章の最後が夢と志を育む。2番目が「徳」かなと思えますが、最後が資質、能力である。ちょっと平仄が合いにくいかなと思えます。

最後は「体」で心身の健康をと、最後が意欲、実践力と。実践力は体の事も入るからここは平仄が合っているかと思えますが。

中身についてではなく、伝えるために工夫を少し考えていただいたらと思えます。

<藏田市長>

どれが中心ということではないですが、言いやすさ伝わりやすさということがあると思うので工夫させていただきます。

<織田委員>

基本方針4の一文が非常に長いです。しなやかでというところも。接続詞を使ってよく分かるようにされれば良いかなと思えます。最後まで読んでいたら一体何が言いたかったかなというところがあるので、さっと読んでも何を中心にするということが分かると良いと思えます。基本方針3の国際交流の所も同じように思えます。

<藏田市長>

読んですぐ理解できるというところが一番かと思えます。そういうところも考えさせていただきます。

<長嶋委員>

全体を見ていると芸術という言葉が無いので、「くらら」もできますし、新しい美術館もできますので、文化に含まれるかもしれないが、芸術という言葉がどこかにあればと思えます。

<織田委員>

個人的な思いですが、東広島スタンダードは、それこそ0歳から生涯にわたっての東広島市の特色というか、生涯を貫くものがあると良いなと思えました。

東広島スタンダードは保育所にも幼稚園にも掲げてありますし、地域センターにも貼ってあります。基本方針2だけで掲げられるのはもったいないような気がします。

地域でお互いに挨拶を交わすとか、言葉遣いにしてもそうです。小さい時からこれらができるというのは大切だと思えます。東広島として、生涯を通してこういうことを大事にしていきたいと思います。

<藏田市長>

逆に書いてあることだけでなく、大人が子どもに見本を見せたりとかということも必要ではないかと思います。

<長嶋委員>

そういう意味で言いますと、基本方針1の親が子育てについて学ぶ機会という場で鍛えていくということをするれば、定着していくのかなと思います。

<織田委員>

基本方針2の「かしこく」は、学力、知というところに直接結びついていないかと思いません。

<下川教育長>

あくまで基盤ということで、レベルアッププランの中からとっています。直接、かしこく、知の部分には結びつかないが、基盤であるというところで、そういう解釈でここは書いておきます。

<増田学校教育部長>

教育振興計画は教育に係る施策の方向を定めておきまして、実施計画として第4次学校教育レベルアッププランがあります。

基本方針や施策の基盤で書いてあることをベースに個々の施策については教育振興計画やレベルアッププランで実行していくということですので、今のことはそれらの諸計画の中に盛り込んでおりますので、大綱の中では大元の基盤ということで書かせていただいています。

<渡部委員>

基本方針4-3にスポーツのことについて記載があります。これは良いと思いますが、もう一つ、スポーツの持つ力というのは非常に大きくて、将来的には観光や産業のことと関係します。例えば、廿日市市はけん玉を宣伝したりトライアスロンを売り出したりしています。三原市の佐木島もトライアスロンを売り出しています。

真似する必要はないが、本市の特色を生かしたスポーツ文化の育成ということが一つあってもいいのではないかと思う。

5年、10年かけてそういうものを育てていく。そうすると、このスポーツだったら東広島市というような響きが伝わるようなものをこれから出していく必要があるのではないか。

前からも申し上げていたが、なかなかそういう風になっていないということで申し上げるのだが、陸上、レスリング、柔道などで優秀な選手がたくさんいますが、それはそれとして、東広島ならではのものを育成していくということが入ってもいいかなと思います。

<藏田市長>

競技自体はメジャーではないが、競歩の選手で次回のオリンピックに出ようかという選手もいます。レスリングも小さい子が活躍しています。

本市ならではのスポーツというのが何かあればと思います。

<織田委員>

ゴルフはどうか。子どもたちがスナッグゴルフで活躍しています。ゴルフ場も多い。

<渡部委員>

色々な候補があると思うが、何かアピールできて育てていく。他の種目を潰してしまうのではなく、それを中心に盛り上がっていく、そういった勢いを持たせるような。

5年、10年かけて強調していけば、それなりの成果も出てくると思います。指導者も優秀な方が育ち、選手も集まってくる。そういうことができればと思っていますので、一行加えてもらえればと思います。生涯にわたってスポーツを楽しめる環境の形成の下に収まるとは思います。そうしたことがあれば、よりメリハリのあるアピールができるのではないかとと思っています。

<事務局>

沢山ご意見をいただいておりますので、検討をしっかりとしていきたいと思っています。

<下川教育長>

基本方針3の学術（大学）というところですが、書かれていることは良いと思いますが、実は市内の小、中学校、広島大学、近畿大学、広島国際大学と色々大学があるということを活用して、大学の先生を始め、学生にも学校に入ってもらって、教師の指導力の向上、あるいは子どもへの学習の支援ということでやっていただいておりますので、大学、学生と小、中学校、地域、市民というように学校を加えていただくと。小中学校と大学との連携は本市の恵まれた環境でございますし、実際やっていることなので、入れていただくのはどうかと思いますが、いかがでしょうか。

<事務局>

沢山ご意見をいただきましたが、大綱ということでどこまで具体性を入れて書くかというところは整合をとらせていただければと思います。

教育振興基本計画などの中に書かれているものについては、どこまで具体性を入れるかというのは全体の整合性をみた中で、ご意見を総合的に検討させていただければと思います。

<坂越委員>

高校生がいないなと思いました。教育大綱ということなので、東広島市に住んでいる全ての人たちが教育ということに関わってということが一つの考え方だろうと思います。

教育長が言われたように、小、中、大というところでもまた目立つので、むしろ市民という括りの方が高校生も込みでということの方が良いかとも思います。地元の高校が果たしている役割はかなり大きいと思います。

<下川教育長>

高校は義務教育を離れた段階の中なので、書くのが難しい面があるかもしれない。学校がやっているだけに小中学校をと思いましたが、広義に解釈すれば市民の中に入るので、あえて書く必要はないかもしれない。

<藏田市長>

渡部先生が言われたように、スポーツの持つ力によって本市が、市民が一つになるということもあります。その他、気付きがあればお願いします。

<渡部委員>

2ページに基本理念の説明があります。日本一の教育都市東広島というのがあり、これはよく分かりますが、教育委員会として教育だけに響きが大きくなると、文化ということもあるのではないかと思います。そういう風には書いてはどうでしょうか。

教育大綱には、生涯教育、文化、芸術も入ってきますので、そこに追加してはどうでしょうか。検討していただければと思います。

<増田学校教育部長>

「日本一の教育都市 東広島」というキャッチフレーズは、学校教育レベルアッププランの中にありますので、まさに学校教育の実施計画の目標ということになると思います。

<下川教育長>

「日本一の教育都市 東広島」ということを変えるのではなく、「及び文化」というように表現、書きぶりを考えれば良いかと思います。

<坂越委員>

ここで人づくりということを使っただけならば、理念の人づくりと合います。

<藏田市長>

先日、テレビに河内の小学校が出ていました。すごく評価を受けているみたいで、ユニークな発想であるかもしれないが、自分を成長させるためにすごく頑張っています。

自分たちの教育レベルを上げて行くために色々な施策をしていますので、そうしたことも参考にしていきたいと思います。

<織田委員>

高齢者を対象にした教育というのは生涯学習ということでしょうが、地域センターなどで色々講座を設けて、充実されているので高齢者を意識したところもあって良いかと思いません。

<下川教育長>

教育大綱ですので、あまり広げ過ぎても難しくなっていくと思います。

<藏田市長>

社協の方から熟年大学からそうしたことをやって地域で頑張っていただけの方を育てているところがあり、そうした方々が色々なジャンルの事を学び、地域で講師としてやっていただいているということもあります。

<渡部委員>

先程のことですが、「日本一の教育都市及び文化都市東広島」としたらいかがかと提案しますので、検討していただければと思います。

<藏田市長>

様々なご意見をいただきました。事務局で整理していただいて、次回は作り上げていこうと思っておりますので、それまでにお気付きの点、あるいは今でもありましたらお願いしたいと思います。

基本方針と施策の基盤のつながりは、もっとわかりやすくなるよう工夫した方がよいかもしれない。

<下川教育長>

施策の基盤のところ、基本方針のこの中の言葉、0歳からのスタートなどを併記したらわかりやすいかもしれない。

<事務局>

工夫をさせていただきたいと思います。

<藏田市長>

いただいたご意見を取りまとめさせていただいて、次回、報告させていただきます。教育大綱案はここまでとさせていただきます。

議事(2)その他は特に用意しておりませんが、何かありましたらお願いします。

次回の開催については、改めて事務局から連絡させていただきますので、日程調整並びにご出席の程をよろしくお願ひしたいと思ひます。

本日の会議はこれにて閉会させていただきます。ご協力いただきまして、誠に

ありがとうございました。

○閉 会